

五戸総合病院での研修を終えて

平成30年7月研修医
大阪市立大学医学部附属病院
初期臨床研修医 奥村 真侑

私は1ヶ月間、五戸総合病院の外科で研修をさせていただきました。初日に病棟を訪れた際に感じたことが二つありました。

まず、外科病棟でありながら内科疾患で入院されている方もいらっしゃることに驚きました。なんでも診ることができる、できなければならない地域の特性を感じました。

次に、数日前に手術をした患者さまからターミナルの患者さままで同じ病棟で入院されていることに感心しました。交通手段や医療施設が沢山あるような状態ではない地域に住む方々にとって、急性期から慢性期まで幅広くカバーできる病院があることはかなり有益なことであると考えました。

研修期間も半ばに差し掛かるにつれ、多職種の方々と接する機会も増えるようになりました。

病棟では入院期間だけ必要最低限のことをするのではなくむしろ退院してからのことに重きを置いてリハビリや栄養計画を立て、アドバイスをくださるコメディカルの方々に、そして外来では創傷処置に詳しい看護師の皆様には本当にいつも助けて頂きましたし大変勉強になりました。

中でも、検診センターでの研修はマンモグラフィやMDLの読影などを技師の皆さまに沢山ご教授いただきました。普段はコメディカルの方々と接する機会があまりないので、撮影条件や疑わしい所見に対する意見を直接聞くことができ刺激でした。

一ヶ月の地域研修を通して外来・病棟業務に加えて、検診センターや町役場との連携、特別養護老人ホームへの往診などは、病院が地域に根ざした医療を継続していく上でとても重要なことであると感じました。

病院内でも病院外でも地域の方々と触れ合う機会が沢山ありましたが、いずれの場面においても親切に迎えてくださり、大変感激いたしました。

最後になりましたが、安藤院長、小林先生をはじめとする先生方、看護師の皆さま、コメディカルの皆さま、そして地域の皆さまに、深く感謝いたします。